

# 防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成28年度病害虫発生予察防除情報第16号

## 施設野菜（果菜類）のコナジラミ類の防除対策について

きゅうり、トマトなどの施設野菜（果菜類）において、コナジラミ類の発生が多い傾向にあります。今後発生の増加が予想されますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況等

- (1) 2月上旬の巡回調査（12筆）におけるコナジラミ類の調査では、きゅうりでの寄生葉率は3.0%（平年1.2%）、発生圃場率は33.3%（平年21.7%）、トマトでの寄生葉率は1.6%（平年0.5%）、発生圃場率は50.0%（平年16.3%）と多い発生であった（図1、2、3、4）。
- (2) 2月上旬の巡回調査（12筆）におけるきゅうり退緑黄化病の発病株率は0.008%（平年1.1%）、発生圃場率は8.3%（平年23.6%）、トマト黄化葉巻病の発病株率は0.01%（平年0.3%）、発生圃場率は8.3%（平年24.8%）であった。
- (3) 向こう1か月の気温は平年並であるが、日照量が多い見込みであり施設内の温度が高くなることが予想され、本虫の発生に好適である。

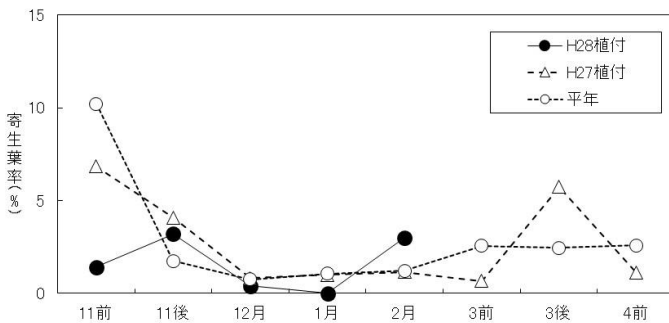


図1 きゅうりのコナジラミ類 寄生葉率の推移

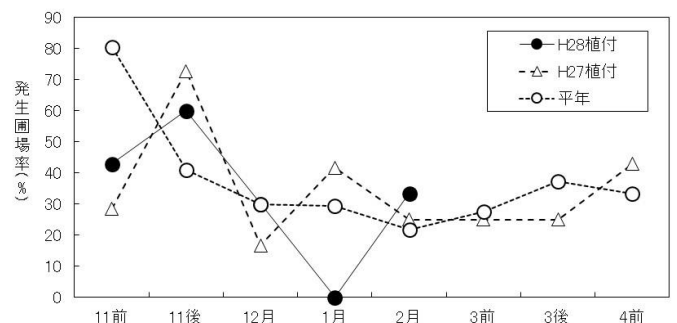


図2 きゅうりのコナジラミ類 発生圃場率の推移

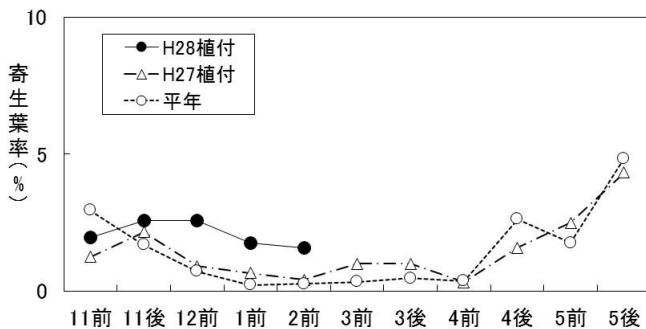


図3 トマトのコナジラミ類 寄生葉率の推移

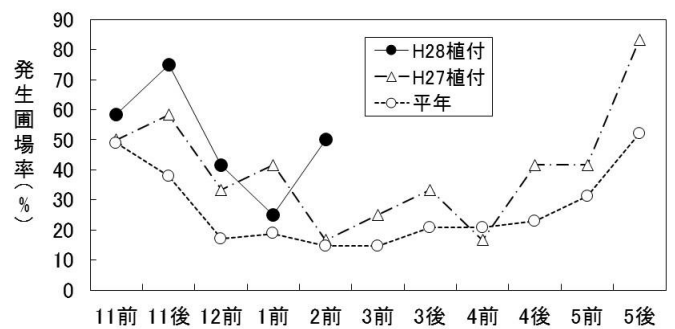


図4 トマトのコナジラミ類 発生圃場率の推移

注) 平年はH22～26年の平均値

## 2. 防除対策

- (1) 本虫は CCYV や TYLCV などのウイルスを媒介するので、黄色粘着板等で発生状況を把握し、初期防除に努める。
  - (2) 茎葉が繁茂すると防除が困難になるので、早期に防除を徹底する。
  - (3) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
  - (4) マルハナバチの導入圃場では影響の少ない薬剤を使用する。
  - (5) 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。
  - (6) 栽培終了後に施設の開口部を 7～10 日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。
- 

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

